

社会科学習指導案

神辺町立御野小学校 指導者 榎本 啓志

1. 学 年 第4学年1組 24名

2. 単元名 なくそうこわい火事

3. 単元設定の理由

- 4年生の学年における目標は、「地域における社会的事象を具体的に観察し、地図や各種の資料を効果的に活用することができるようにするとともに、社会的事象の特色や相互の関連について考えることができるようにする。」である。その中で、「地域社会において、火災、交通事故、盗難などの災害や事故から人々の安全を守るため、関係の諸機関が相互に連絡を取り合いながら緊急に対処する体制をとっていることを見学したり調べたりして、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力について理解できるようにする。」ことが大切だと考える。
火災は、不注意から起こることが多く、いったん火災が起きると、生命や財産を脅かす恐ろしい災害である。そのため、消防署を中心にして、施設・設備の整備や点検，訓練，広報活動などに取り組み，火災の予防や発生時に対する備えをしている。また，火災発生の緊急時においては，関係の諸機関が相互に連絡を取り合いながら，消火や救助に当たるなど，一刻を争って事態に対処している。さらに，地域にも様々な消火設備や組織があり，人々が協力して自分たちの町を火災の被害から守る工夫や努力をしている。これらのことを通して，地域の消防署などの関係機関に従事する人々が相互に連絡を取り合いながら協力して活動し，火災から人々の安全を守る工夫や努力をしていることをとらえ，地域社会の成員としての自覚を持たせていくため本単元を設定した。
- 本学級の児童は，これまでごみの処理の仕方や水道などについて教科書や家庭での聞き取りを中心に調べ学習をしてきたが，興味・関心や調べ学習の内容は個人差が大きい。中には，教科書や資料集だけでなく，自らインターネット等で調べ，必要な資料を探し出しまとめることができる児童も数名いる。その一方で，聞いたことや見たことなどは発表できるが，本や資料をもとに考えたことを自分の言葉で表現したり，必要な資料かどうか取捨選択したりすることがむずかしい児童が3分の1くらいいる。昨年度行った到達度学力検査(CRT)においても，すべての項目において全国平均を上回っているが，個人差は大きい。社会的な思考・判断，観察・資料活用の技能・表現においては，土地の利用など複数の事象を関連づけて考えることができにくかった。また，八方位やグラフのきまりを十分理解していない実態があった。
児童は，火災発生時に119番に電話をすると，消防自動車や消防署の人々が来て消火に当たることを当然のことと考えている。また，実際に火災を見たことのある児童は2人ほどで，テレビや新聞などで火災について知っているものの，その原因や怖さなど火災を身近なこととしては感じていない。学校や地域（各家庭も含め）の各所に消火器や消火栓，防火水槽などが設置されていることにも，それほどどの関心を持ってはいない。さらに，火災が起きたときの発見，119番への通報から消火活動が行われるまでの関係機関を含めた組織的な活動などを知る児童はいない。
- 指導にあたっては，まず，新聞記事やテレビのニュースを通して，火災の原因や被害の規模からその怖さや大変さを感じ取り，火災を身近なものとしてとらえさせたい。そして，校内や自分たちの生活している地域の防火施設の観察や消防署の見学を通して，火災から人々を守るため，関係諸機関が相互に連絡を取り合って火災防止の対策を立てたり，火災発生に備え，緊急に対応できる訓練をしたりしていることを理解させたい。さらに，安全な生活をするための，町民としての協力の仕方を考える態度を養いたい。そのために，視点を明確にして，校内や地域の防火施設の観察や深安消防署の見学をし，施設の構造や設備，車両や機材，署員の仕事の様子を具体的に観察させたい。また，消防署の見学をもとにしながら，学校や地域の防火施設の様子，火災発生時に短時間で出動できる理由，関係機関の相互協力体制等を一人一人の子どもの興味・関心や考え方に応じて追求させたい。子どもたちの疑問をその都度立ち止まりながら解決させ，子どもから生まれる新たな問いを大切にしていきたい。そして，これらの学習を通して，地域の安全を守ることの大切さを感じ取らせたい。

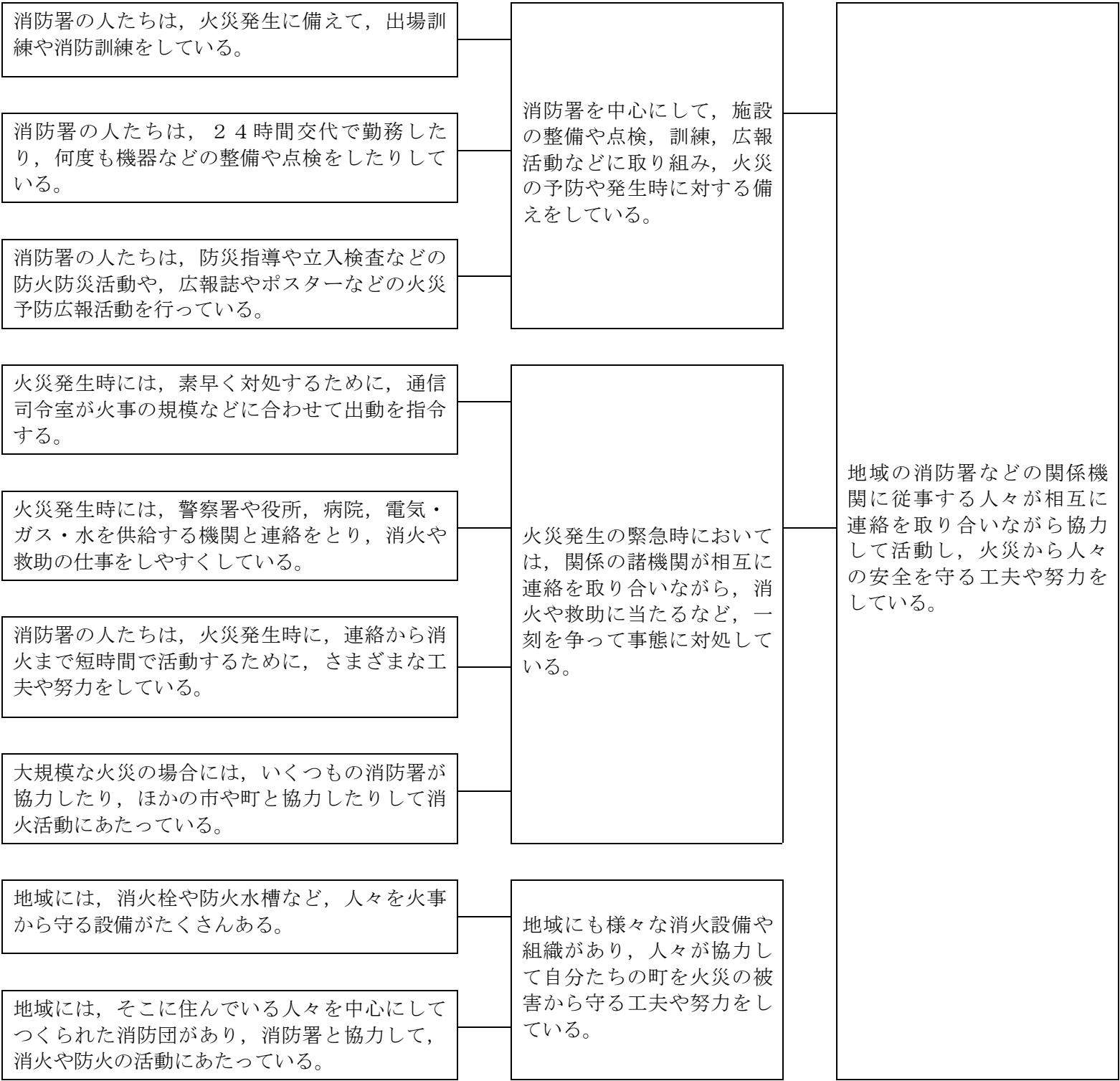
4. 単元の目標

- ・火災から地域の人々の安全を守る工夫について，消防署を見学したり調査したりして調べ，人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を考えるようにする。

5. 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
・火事が起きたときの関係機関の働きや，火事に備えた施設・設備に関心を持ち，進んで調べようとする。 ・火事への備えや関係機関の働きについての理解に基づいて火事から暮らしを守る諸活動への関心を高める。	・地域社会における火事から人々の安全を守る工夫について問題意識を持ち，学習の見通しを持って追求・解決している。 ・調べたことをもとに人々の安全を守るための関係機関の働きと，そこに従事している人々の工夫や努力を考え，適切に判断している。	・消防署の見学や署員への聞き取り，資料等からわかったこと，学習の経過などを工夫してわかりやすくまとめ，友だちに伝えることができる。	・火事から暮らしを守る関係機関の働きと，そこに従事している人々に工夫や努力について理解している。

6. 単元構想図



7. 単元指導計画（全10時間）

段階	回数	時数	学習活動	評価基準				評価基準	評価方法
				関	思	技	知		
5	1 かけつける消防車会	1	・身近で起こった火災について知っていることを発表し、さらに知りたくなったことを話し合う。	◎				・様々な火災の原因や消防署についていこうとする意欲を持つ。	ノート
6	2 こわい火事	2	・火事による被害や原因を調べ消防署を見学する計画を立てる。			◎		・グラフから火災の被害状況や原因を比較したり、関連させたりしながら読み取ることができる。	発表 ノート
追求する	3 消防署の仕事と働き	3 4	・消防署の係の人の話から火災がないときの設備の点検や整備、訓練などの仕事について話を聞く。 ・消防署の、係の人から一日の過ごし方について話をきく。		◎			・火災を防ぐための消防署の取り組みや消防署の人たちの努力をとらえることができる。	ワークシート
		5	・聞き取りをしてわかったことを			◎		・聞き取りでわかったことや思ったこ	ワークシ

			まとめる。					とをわかりやすくまとめ、表現することができる。	ート
		6	・火災にすばやく対処できる通信司令室の役割や関係諸機関との協力について考える。				◎	・火災時の通信司令室の役割や、火災から人々の命や財産を守るために関係諸機関が連絡を取り合っていることを理解する。	ノート発表
		7	・火災発生の連絡から消火作業まで、短時間に活動を行う消防署の人々の工夫や努力を考える		◎			・消防隊員が緊急時に機敏に行動するための工夫や努力をこれまでの学習内容と関連させて考えることができる。	ノート発表
		8	・消防署では、大火災に備えて近隣の市町村と協力体制をとっていることや、大火災にそなえた消防支援隊や国際救助隊の協力的な活動について調べる。			◎		・大きな火災に対し、素早く対処できるように、近隣の市町村と協力体制があることや、消防団が緊急時に対処するために活躍していること、また、国際的な協力体制があることを理解する。	ノート発表
	4 くらしと命は自分たちの手で守ろう	9	・自分たちの地域にある消防設備や消防団の働きを調べ、地域における防火や消火の仕組みを考える。		◎			・自分たちの地域にある消防設備や消防団の働きを調べ、地域における防火や消火の仕組みを考えることができる。	ノート発表
交流する	4 まとめ	10	・これまでの学習をふり返り、わかったことや思ったことを自分なりの方法でまとめる。		○	○	○	・命や財産を守るために自分たちにできることを話し合い、火災防止に対する自覚を高めることができる。	行動観察テスト

8. 本時の学習

- (1) 本時の目標
 - ・火災発生の連絡から消火作業まで、短時間に活動を行う消防署の人々の工夫や努力を考える
- (2) 評価規準の観点
 - ◎・消防隊員が緊急時に機微に行動するための工夫や努力をこれまでの学習内容と関連させて考えることができる。

【社会的な思考・判断】
- (3) 準備物

指導者・・・消防署見学の写真やビデオ

児童・・・消防署見学のまとめのワークシート
- (4) 本時の展開
- | 過程 | 学習活動・発問及び予想される反応 | 資料 | 学習への支援（○）
指導上の留意点（・） | 評価基準 |
|----------|---|--------------------------|-----------------------------|------|
| 導入
課題 | ①前時までの学習を想起する。
○通信司令室の役割について思い出そう。 <ul style="list-style-type: none">・火事の様子を確認する。・火事の大きさに合わせて、担当地区の消防署に出動の指示を出す。・現場までの道順を示す。・警察や電力・ガス会社、水道課、病院などに連絡し、消火や救助の仕事をしやすくする。 | ・前時のまとめ | ・前時のまとめを見ながら、具体的に思い出すようにする。 | |
| | ②課題を確認する。 <div>連絡を受けてから、消火活動をはじめるまでにすることはなんだろう。</div> | | | |
| | ③課題に対する自分の考えを発表する。 <ul style="list-style-type: none">・通信司令室から連絡を受ける。・消防服を着る。・現場に着くまでに指揮車から消火作戦を受ける。・到着する。・ホースを消火栓につなぎのばす。・消火活動 | ・「見学の写真」で1つ1つの行動を確認していく。 | ○見学したことを思い出させるようにする。 | |

中核 課題	・連絡を受けてから5分間で消火活動にはいる。 ④火事の連絡を受けて御野小学校に来るまでに、どれくらいの時間がかかるか予想する。 ・身じたくに3分くらいかかる。 ・準備物の用意に5分くらい。 ・信号などがあるから20分くらいはかかる。 ・ホースを出すのに5分くらいかかる。 ・大急ぎだから3分くらいで来る。	・「消防署から御野小までの地図や距離」「生活経験」を基に考える。		
	なぜ、連絡を受けて5分後には消火活動が始められるのだろう。			
まとめ	・早く服を着るために訓練をしている。 ・車の点検、前向きに駐車 ・サイレンをならして走る。 ・いつも道順を調べておく。 ・消火栓の位置の確認と点検 ・消火訓練 ・これだけの努力をしているから5分で来る。 ⑤学習のまとめをする。 ○今日の学習で、消防署の人たちの努力でわかったことや、疑問に思ったことをまとめよう。 ・速く消火活動をするために、訓練や設備の点検をしている。 ・5分間で現場に着くために努力をしている。 ・火災の連絡を受けてから、できるだけ速く出動する努力をしている。 ⑥御野小学校より遠い家はどうするのだろう。 ・もっとスピードをあげて行く。 ・井原の消防署から来る。 ・近所の消防団が消しに来る。		○人々の工夫や努力について考えることが困難な児童には、見学のまとめの中から、素早く消火活動が始められることと関係があると思えることを見つけるように助言する。	A:消防隊員が緊急時に機敏に行動するための工夫や努力をこれまでの学習内容と関連させて考え、自分なりの言葉で記述したり、新たな疑問を持ったりしている。 B:これまでの学習を想起し、人々の工夫や努力について考えている。
		・「家の燃える速さ」の資料を提示し新たな疑問を持たせる。	・人々の工夫や努力に着目できるようにする。	・地域の消火設備や組織に目を向けさせる。